



北海道医歌人会詠草

札幌の街

江別 三宅 浩次

街並みを抱くように山や川札幌の道に風吹き抜ける
札幌の夜といえばススキノの語りつくせぬ友の思い出
これまでにドラム缶ほど飲んだなど笑いとばせる友らがいて
幼き日舗装もされぬ道を占め好きでも下手なキヤッチボールを
札幌の大通りを啄木がうたったように今もそのまま

ラドリコサウ

札幌 浜島 泉

山道にラドリコサウを訪ね来し ヒメラドリコがバス道に咲く
シラカバにクズの枯れ蔓垂れ下がり 茂り行く葉にやがて覆はる
シラカバの雄しべが落ちて積もる朝 花粉に悩む患者複数
雨上がりハクウンボクの花の下 傘をまはしつ乾びつるべく
罵倒する人を鎮めつ 昂ぶりは病ひのなせる苦しみにして

総括

釧路 兎玉 昌彦

ダンボール二箱分の写真整理、アルバム作りにまたコピーする
とめどなく流れる時間堰き止めて悲しみ拾う想い出アルバム
五年前、十年前はあの人もこの人もこんな若さだったか
とっておく写真と棄てていい写真、最後はどちらも同じになるのだ
何を棄て何を拾うか何を見て何を見ないか総括の果て

妻、帰る

北広島 古屋雅三知

ブレドニン15mgにて帰り来て家の中でもマスク離せず
長き留守に変わりたるもの何かある これが我が家と踏みしめて居り
ほのぼのと久方振りに点りたる居間の燈火 家族の笑顔
再発のリスクの消えぬ日々なれば子らも家事為し母を支えて
覚めやらぬ耳に幽かに流れ来る組板の音 愛妻のいる音

あいの風

函館 水関 清

青空にモクモク育つ 入道雲 ジブリの夏は蝉時雨の中
伸びてゆく蔓に漲る南瓜の やる気の先に どんな夢見る
三つ子あり五つ子もある綿の中 そら豆挽ぎの 飽かぬ楽しさ
吐き出せ吐き出せ胸の内 出し切ればまた ゆっくり吸える
するすると細き火 夜空を駆けのぼり開くあわいの 花火のたゆたい

夏のコロナ

士別 竹内 幹夫

斯く恋ふも客乞ふ客来と聞ゆかな 人影寂しき湯の宿の朝
祈ぎ人の衆をいとふは如何ならむ 袂へ浄めの希ひはいづこに
灰白き君の口もと艶めきて 出づる言の葉涼やかに聞く
幾千のコロナ禍刻むか吾がゲノム 進化の痛みを感じずるは今
をさなすらマスクを外し気兼ねなく 絶叫し合ふネットワーク誕生会